

## 整備内容

【天白川河川整備計画の基本理念】

「里と街を流れ、都市を潤い、自然と人を育む川づくり」

～水害に対して安全であるとともに、上流域の里山と下流域の街の住民が、

流れを通じて自然とふれあい、自然と暮らしが融合した、潤いのある川づくりを進めます。～

### ●治水

- 整備（洪水）流量を安全に流下させるため、河川断面の拡大や堤防の強化を実施します。
- 天白川の水位を下げ、内水（堤防より宅地側の雨水）や支川排水を改善します。

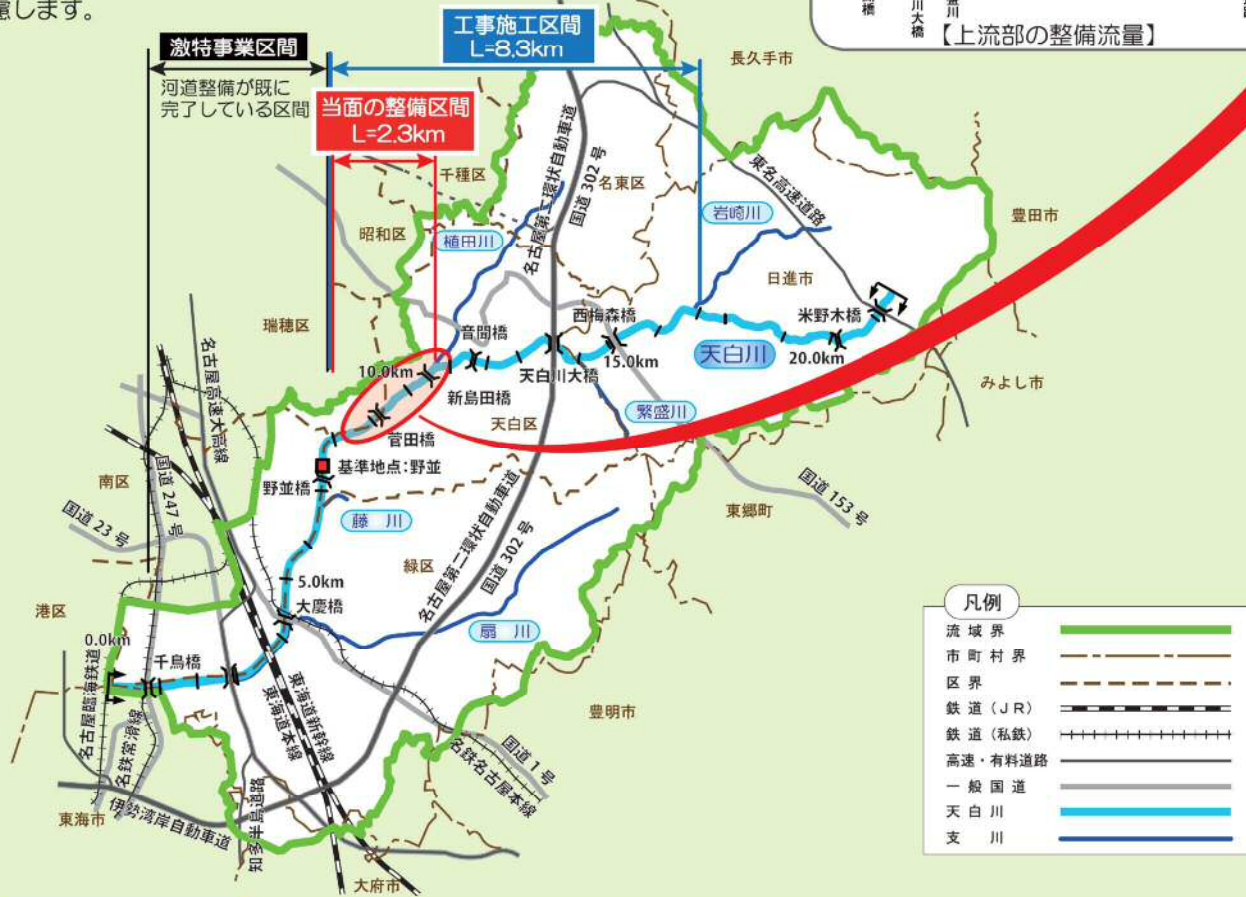
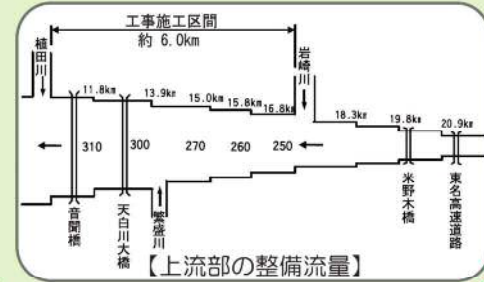
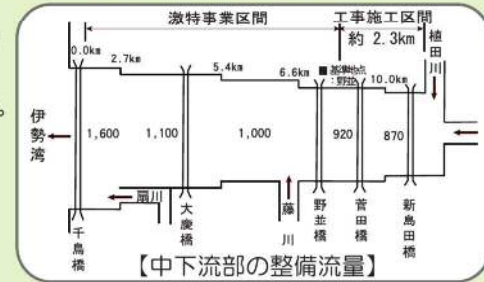
区間	計画対象降雨
中下流部（野中橋～植田川合流点）	既往最大洪水（東海豪雨相当）
上流部（植田川合流点～上流）	年超過確率1/10の規模の降雨（24時間雨量205mm）

### ●多自然（環境）

- 河床幅、低水路幅を確保して、生物の生息空間である砂州・瀬・淵や水際植生を回復させるとともに、川らしさを維持します。

### ●高水敷等（利用）

- サイクリングロードや公園等の高水敷施設は現況の利用形態を踏まえ復旧します。
- 改修後の高水敷の冠水頻度を現在とほぼ同程度とし、整備後の高水敷利用に配慮します。



## 現在整備を進めている区間

野中橋より下流の区間は、平成12年の東海豪雨を契機に実施した「河川激甚災害特別緊急事業」により、引堤や河床掘削等の河道整備が完了しました。

現在は、その上流である野中橋付近から植田川合流点の区間（当面の整備区間）において、河道の整備を進めています。



## 適切な維持管理

治水機能の維持や河川環境の整備・保全の観点から総合的に判断し、適切に維持管理を行います。



## 地震・津波対策について

地震・津波対策については、平成26年12月に策定した「第3次あいち地震対策アクションプラン」に基づき、下流部で河川堤防の耐震化を進めます。

## 河川横断面図

菅田橋下流（8K900） SV=1:50 SH=1:500

天端幅：約5.0m

堤間幅：約130m

天端幅：約5.0m

整備前水位

整備後水位

約1.3m低下

【治水】  
底を掘り下げて洪水を安全に流す。

【親水】  
関係機関や地域住民と連携し、高水敷の利用に配慮します。

【景観】  
都市景観と調和した水辺空間の維持・形成。

【自然環境】  
動植物の生息・生育環境に配慮し、水際や河床形状が多様となるように努める。

低水路幅：約65m

\* 水位低下は東海豪雨相当の流量が流れた場合の計算水位の差です。